

本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済の動向は、鉱工業生産が増加したものの、需要面や雇用面が低迷していることから、全体としては、なお依然として厳しい状態にある。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の 平成17年8月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整 … 1
生産動向 済指数が93.1で、前月比9.0%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上
回った。また、原指数は89.1で、前年同月比6.1%の上昇となり、4ヶ
月ぶりに前年同月を上回った。
- 〔 化学工業を除いた指数では、季節調整済指数が97.0で、前月比14.5%
の上昇(2ヶ月ぶり)、原指数が92.6で、前年同月比5.9%の上昇(4
ヶ月ぶり)となった。 〕
- (2-2) 雇用情勢 平成17年8月の定期給与は232,281円で前年同月比1.2%減となった。 … 2
総実労働時間は、158.4時間で前年同月比1.1%増となり、所定外労働時
間は8.7時間で前年同月比4.9%増となった。
平成17年9月の有効求人倍率(季節調整値)は0.41倍で、前月より0.01
ポイント改善した。
- (2-3) 物価 平成17年9月の青森市消費者物価指数は、102.3となり、前月と比べ0.2% … 3
の上昇、前年同月と同水準となった。
- (2-4) 個人消費 平成17年8月の大型小売店販売額は155億7百万円で、前年同月比3.3% … 4
減となった。
平成17年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,392台
で、前年同月比2.0%の減となり2ヶ月連続で前年を下回った。
- (2-5) 住宅建設 平成17年9月の新設住宅着工戸数は807戸で、前年同月比2.5%減とな … 5
り、2ヶ月連続で前年を下回った。
- (2-6) 公共投資 平成17年9月の公共工事請負金額は、前年同月比13.4%減となった。 … 5

(3) 景気動向指数(平成17年8月分) …… 6

先行指数	66.7% (5か月連続で50%を上回った)
一致指数	66.7% (2か月ぶりに50%を上回った)
遅行指数	66.7% (7か月ぶりに50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査(平成17年10月期) …… 7

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI … 40.8 (前期比1.8ポイント減、18期連続50を下回る)
3ヶ月後の景気の先行き判断DI … 43.6 (前期比2.8ポイント減、6期連続50を下回る)

本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

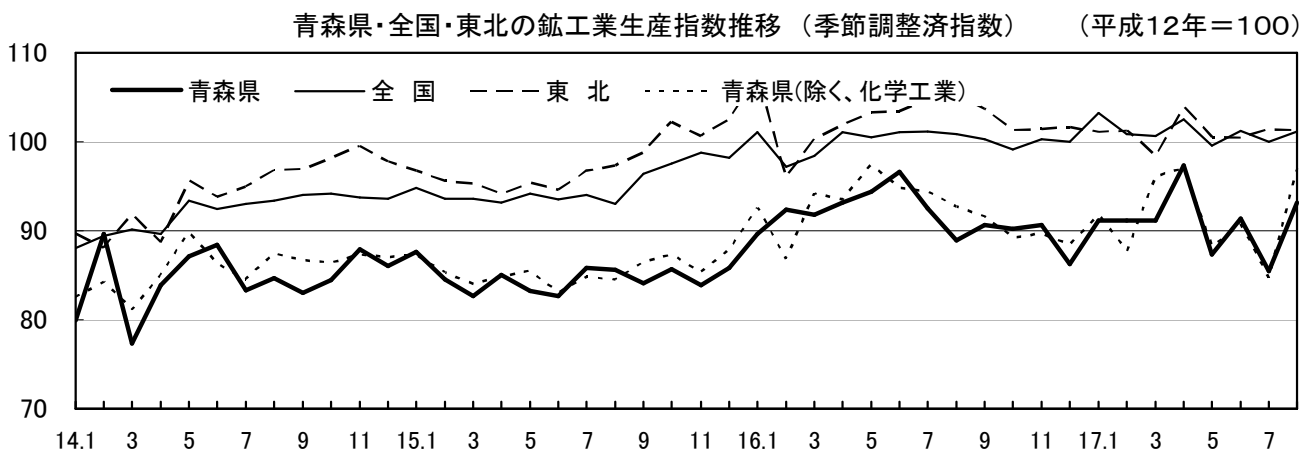
(2-1) 製造業の生産

平成17年8月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が93.1で、前月比9.0%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は89.1で、前年同月比6.1%の上昇となり、4ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、一般機械工業、電気機械工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、その他製品工業、鉄鋼業などが低下し、鉱工業全体では9.0%の上昇となった。

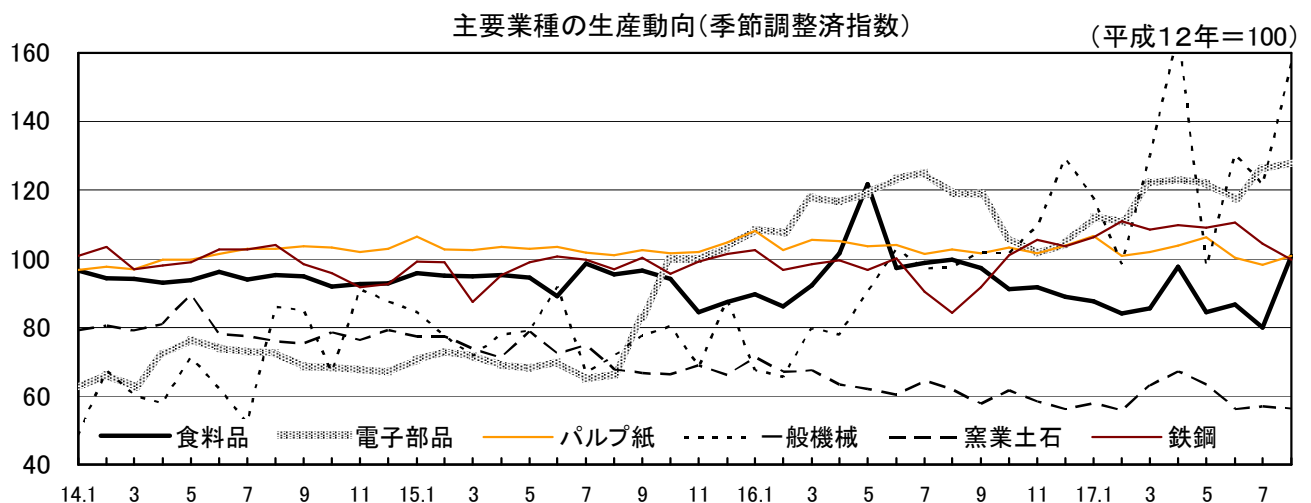
(化学工業を除いた指数について)

季節調整済指数が97.0で、前月比14.5%の上昇(2ヶ月ぶり)、原指数が92.6で、前年同月比5.9%の上昇(4ヶ月ぶり)となった。



◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 +9.0%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	25.9	75.7	化学工業	-81.5	-56.2
一般機械工業	29.1	29.9	その他製品工業	-29.1	-4.2
電気機械工業	36.5	23.5	鉄鋼業	-4.5	-3.5
金属製品工業	26.6	9.7	輸送機械工業	-12.9	-2.0
精密機械工業	21.2	6.4	窯業・土石製品工業	-1.2	-0.6



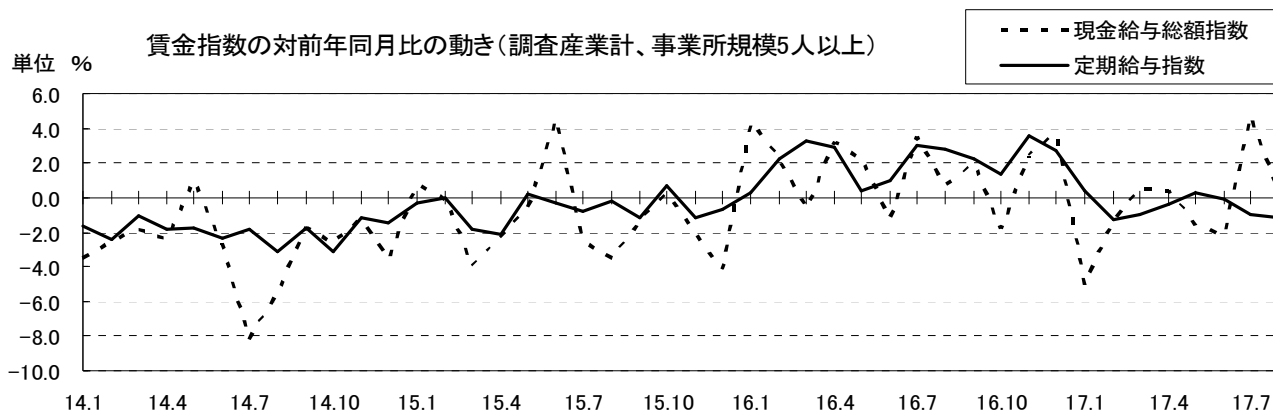
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成17年8月の定期給与は232,281円で定期給与指数(平成12年=100)では97.8となり、前年同月比1.2%減(現金給与総額251,912円、現金給与総額指数87.3、前年同月比0.1%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は85.6となった。

所定外労働時間は8.7時間で、所定外労働時間指数では101.2となり、前年同月比4.9%増となった。

平成17年9月の有効求人倍率(季節調整値)は0.41倍で、前月より0.01ポイント改善した。



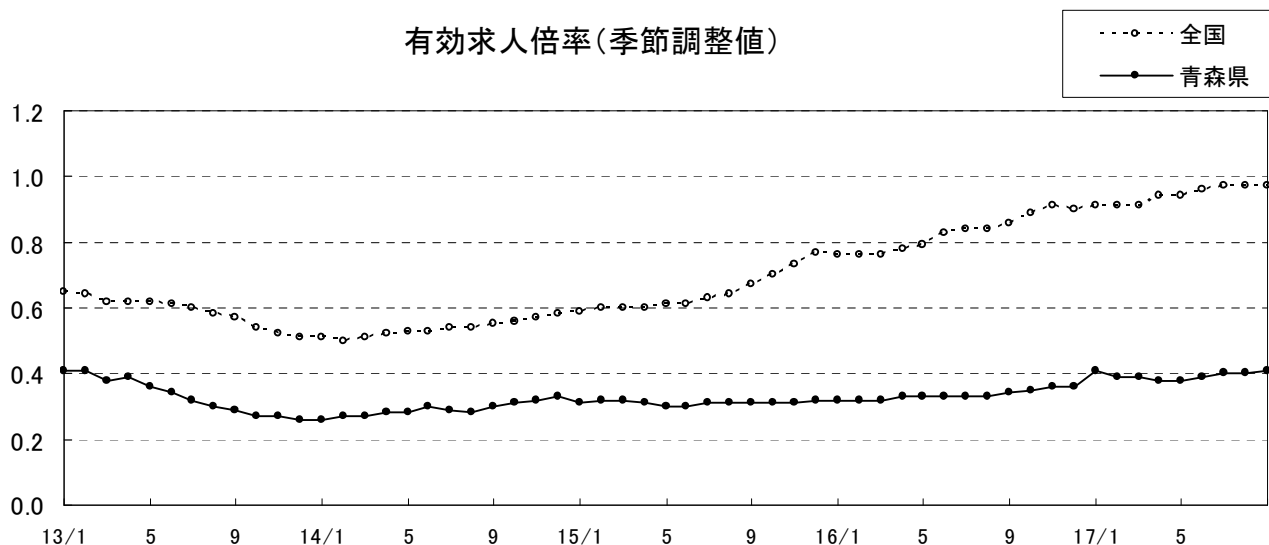
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	251,912 円	286,284 円	87.3	81.0	0.1 %	-1.1 %
定期給与	232,281 円	271,514 円	97.8	96.3	-1.2 %	0.5 %
特別給与	19,631 円	14,770 円	—	—	—	—
総実労働時間	158.4 時間	148.8 時間	100.0	96.7	1.1 %	0.5 %
所定内労働時間	149.7 時間	138.8 時間	99.9	96.3	1.0 %	0.5 %
所定外労働時間	8.7 時間	10.0 時間	101.2	102.0	4.9 %	1.0 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

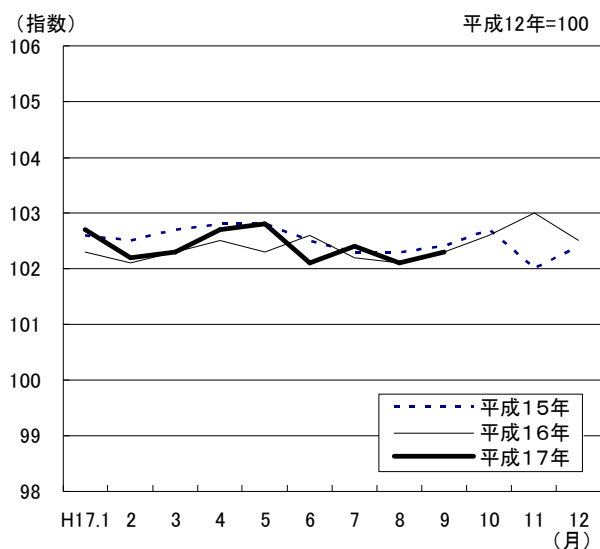
平成17年9月の青森市消費者物価指数（平成12年=100）は、総合指数が102.3となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と同水準となった。

生鮮食品を除く総合指数は103.1となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ0.4%の上昇となった。

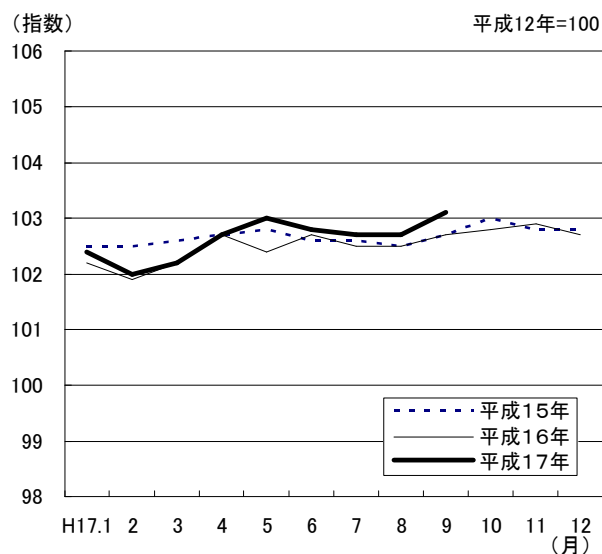
総合指数の前月比が0.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、被服及び履き物の上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と同水準となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、住居の上昇及び食料の下落が要因となっている。

総合指数の動き



生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成12年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服 及び履き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	娯楽	雑費
当月指数	102.3	103.1	97.6	96.5	88.4	122.7	108.3	78.9	86.5	104.3	98.1	110.9	90.1	99.4
前月比 (%)	0.2	0.4	0.1	▲ 0.3	▲ 3.4	0.0	2.3	▲ 0.8	3.5	▲ 0.3	0.2	0.0	▲ 1.2	0.0
寄与度	0.20	0.37	0.08	▲ 0.08	▲ 0.16	0.00	0.20	▲ 0.02	0.18	▲ 0.01	0.02	0.00	▲ 0.10	0.00
前年 同月比 (%)	0.0	0.4	▲ 0.4	▲ 2.4	▲ 6.2	1.4	5.9	▲ 0.9	▲ 3.9	▲ 0.1	▲ 0.3	1.8	▲ 0.6	1.6
寄与度	0.00	0.37	▲ 0.33	▲ 0.66	▲ 0.30	0.35	0.49	▲ 0.02	▲ 0.21	▲ 0.00	▲ 0.03	0.07	▲ 0.05	0.07

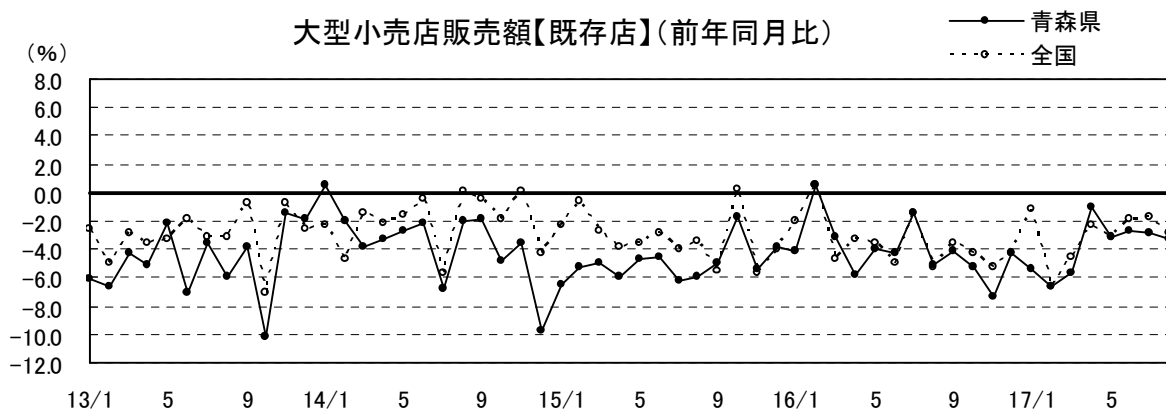
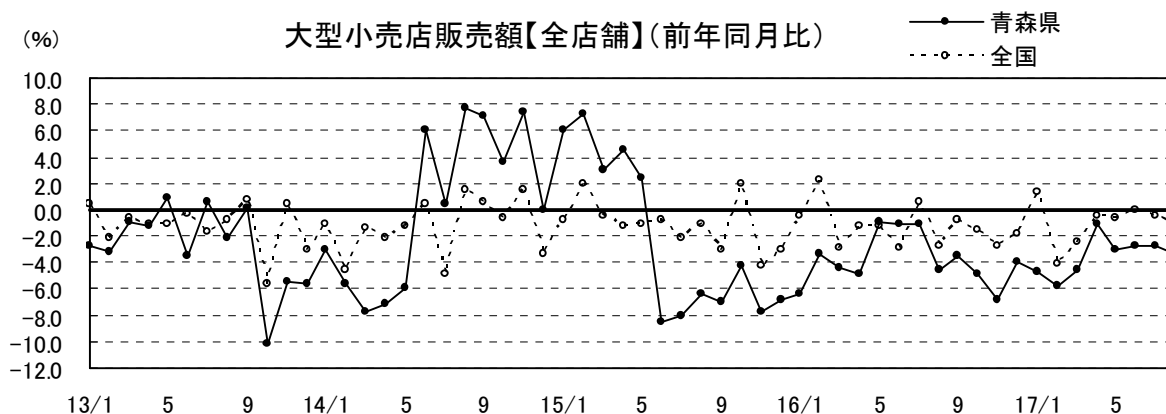
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」（速報）

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

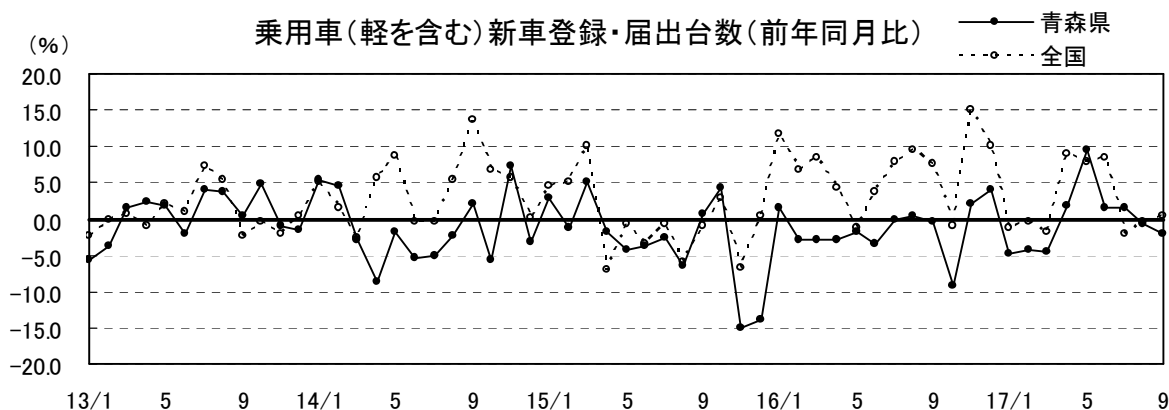
平成17年8月の大型小売店販売額は、前年同月比3.3%減の155億7百万円で全店舗ベースが27ヶ月連続、既存店ベースが18ヶ月連続のマイナスとなった。残暑の影響で飲食料品、衣料品とも低調だったことによる。

平成17年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,392台で、前年同月比2.0%減となり2ヶ月連続で前年を下回った。小型乗用車は8ヶ月連続プラスだったが、普通車が4ヶ月連続、軽自動車も3ヶ月ぶりでマイナスだったことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

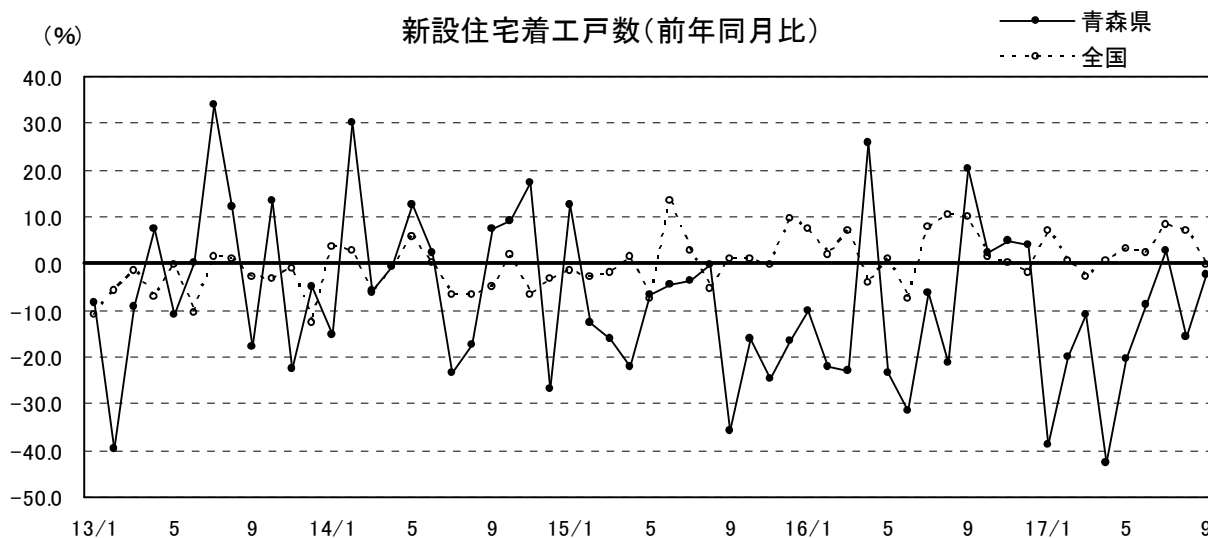
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

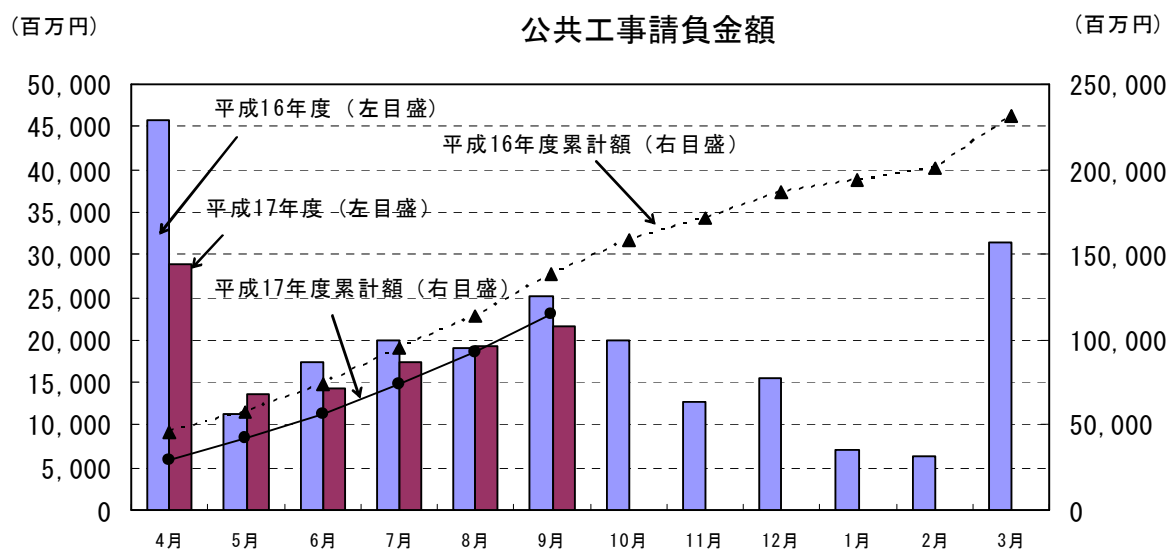
平成17年9月の新設住宅着工戸数は807戸で、前年同月比2.5%減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。分譲マンションに動きがあったものの、持家と貸家がいずれもマイナスだったことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 公共投資

平成17年9月の公共工事請負金額は、217億1千3百万円で前年同月比13.4%減となった。発注主体別では、国が7.4%減、県が6.7%増、市町村が22.3%減、その他が83.5%減となった。また、4月からの累計では17.1%減となっている。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(3) 青森県景気動向指数

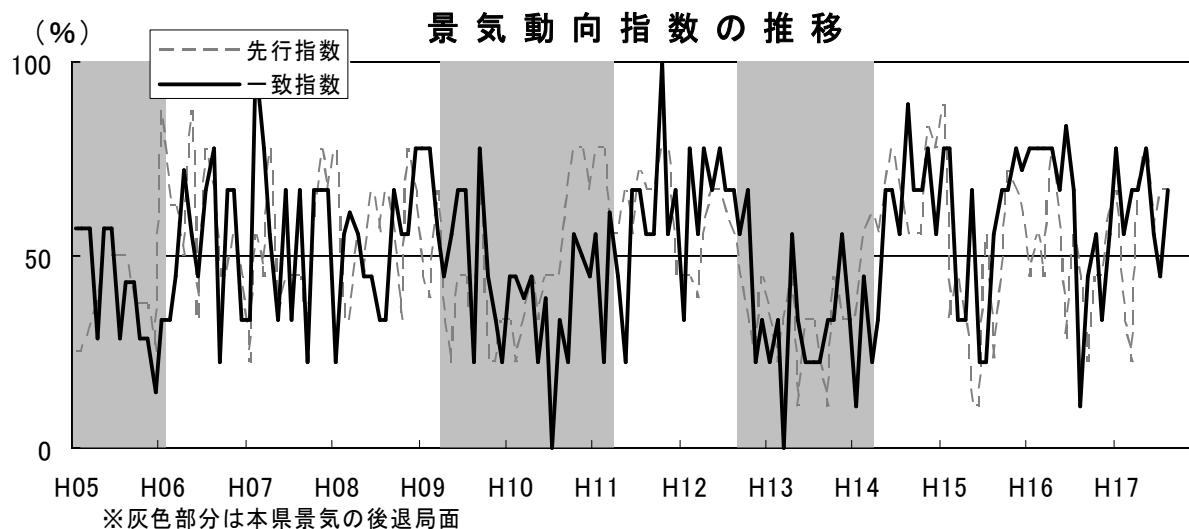
平成17年8月の青森県景気動向指数は、先行指数66.7%、一致指数66.7%、遅行指数66.7%となった。

先行指数は、5か月連続で50%を上回った。

一致指数は、2か月ぶりに50%を上回った。

遅行指数は、7か月ぶりに50%を上回った。

8月の一致指数は、生産関連および雇用関連の指標等がプラスとなったことから、50%を上回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中6指標がプラス）			
乗用車新車登録届出台数	2か月連続	新規求人倍率（全数）	2か月連続
生産財生産指数	2か月連続	所定外労働時間指数（全産業）	3か月連続
新設住宅着工床面積	3か月連続	入職率（製造業）	5か月ぶり
建築着工床面積（鉦＋商＋サ）	5か月連続		
企業倒産負債額	3か月ぶり		
中小企業景況DI	3か月連続		
一致系列（9指標中6指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	5か月連続	大口電力使用量	2か月ぶり
鉦工業生産指数	2か月ぶり	海上出入貨物量（八戸港）	4か月連続
電気機械生産指数	3か月ぶり	日銀券月中発行高	3か月連続
有効求人数（全数）	24か月連続		
総実労働時間数（全産業）	2か月ぶり		
東北自動車道IC利用台数	4か月連続		
遅行系列（6指標中4指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	3か月ぶり	1人平均月間現金給与総額	2か月ぶり
常用雇用指数（製造業）	2か月ぶり	単位労働コスト（製造業）	3か月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	4か月ぶり		
青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	2か月連続		

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

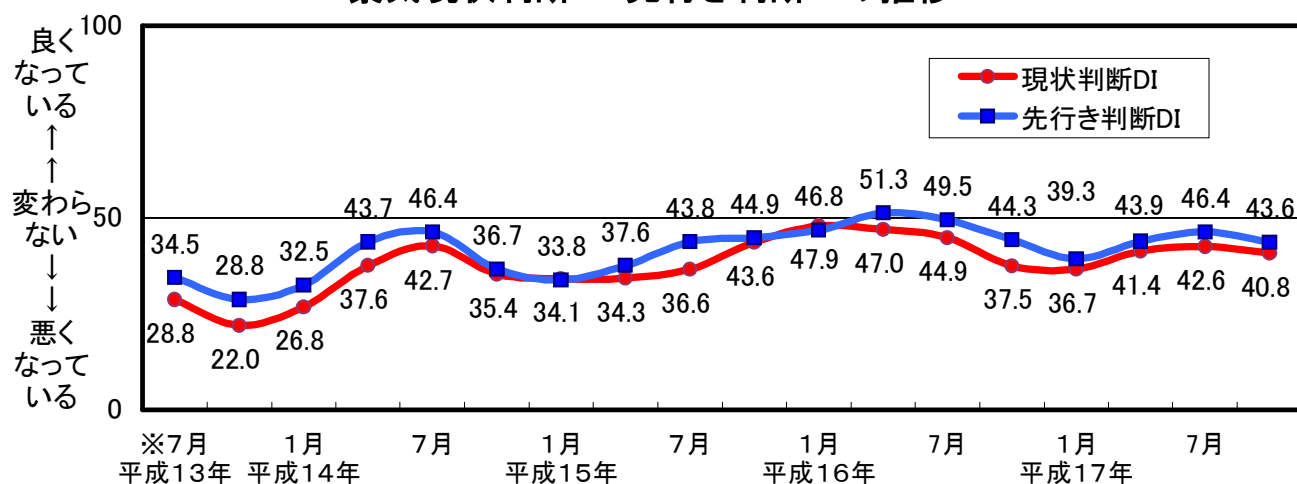
平成17年10月期の景気ウォッチャー調査は、10月3日～10月20日を調査期間とし、回答率98%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは40.8で、前期調査より1.8ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは43.6で、前期調査より2.8ポイント下回った。

10月期は、現状判断DI、景気の先行き判断DIとも2期連続の上昇から減少に転じ、引き続き横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



※平成13年7月は試行調査

● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が2.0ポイント減少し、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が各1.0ポイント増加していることにより、全体では1.8ポイント減の40.8となり、減少に転じた。</p> <p>判断理由をみると、原油高に伴う燃料価格の上昇などによる生活防衛から消費支出の低迷が続き、依然景気回復の動きが見られないとする声が多かったが、最近の株価の上昇傾向を景気浮揚の兆しとして期待する声が見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、県南地区で「やや悪くなっている」が10.0ポイント減と大幅に減少したことから、全体で3.3ポイント増となり、県内4地区で唯一ポイントが増加した。特に企業関連で14.3ポイント増と大幅に増加している。</p> <p>一方、津軽地区で「やや悪くなっている」が17.2ポイント増と前期調査と比べ大幅に増加しており、全体では7.8ポイントの減少となった。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が10.2ポイント減少し、「悪くなる」が5.1ポイント増加していることにより、全体では2.8ポイント減の43.6となり、減少に転じた。</p> <p>判断理由をみると、米・りんご等農作物の豊作が見込まれることなどから、年末に向けて消費の好転を期待する反面、原油価格の高騰による石油関連製品の価格上昇が家計・企業の両方へ影響を及ぼすことを懸念する声が多く見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、県南地区で1.6ポイント増加した以外は他の3地区全てでポイントが減少した。特に下北地区では地元大型店の閉店による影響を懸念する声が多く、全体で17.5ポイント減と減少幅が大きくなっている。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

○自民党が選挙で大勝した事で経済界の安堵感から、株価が最近上がり始めてきている。景気の浮揚のきっかけが見えてきた感がある。(乗用車販売=県南)

○新しい仕事や増産の話が時々あり、納入先も細かくコストダウンしてくることが少なくなった。ただ、材料、燃料の値上がりは不安要因として皆気にしているようです。(電気機械製造=県南)

□原油高騰により消費は冷え込んでいる。(ガソリンスタンド=東青)

□景気は上向きであると新聞等に掲載されているが、地方経済においては残念ながら何ら変わらないと思う。地方においては、まだまだ相当の時間を要すると思う。(パチンコ=県南)

□人材を必要とされていながらも、短期契約は程々にあるが、長期契約が相変わらず少ない。(人材派遣=津軽)

△ガソリンスタンドだが、原油の値上がりで卸値は待った無しで上がっているが、小売値に転嫁出来なく苦しい。(ガソリンスタンド=津軽)

△原油高からガソリン・灯油等も高値状況が続き、冬に向けての備えと生活防衛が働き、消費が低迷し景気は良くない。(商店街=県南)

△原油価格の高騰により、重油をはじめ石油関連諸資材の価格が上昇してきた。その一方で製品への価格転嫁はできていない。(紙・パルプ製造=県南)

×夏期最も客足の伸びる8月も前年割れ、台風が本県をうまく避け通過し、農産物の生産は良いとみられるが、“サイフのヒモはかたい”と考えられ、消費に向ける支出は期待出来ない。(タクシー=下北)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

○若年層の社員に辞めたり、途中入社動きが多くなっています。これは人材の需要バランスがとれて来たのかと思われます。(スーパー=東青)

○大型、中型を中心に忘年会、新年会の動きが今のところ好調だ。今後も中型、小型が見込める。(都市型ホテル=津軽)

○融資相談の話で、運転資金の話より、設備資金の話が多くなってきた。(経営コンサルタント=津軽)

□景気が良くなると売上が好転するというのは「楽観論」だ。いかに今の世の中に合うような「企業体質」を作れるかが問題だ。(衣料専門店=東青)

□灯油・ガソリン等の値上り、又当地区はまだまだ出稼ぎの方も多く今年は特に就職難というお話も聞いており財布のヒモはキツイと思われます。(家電量販店=津軽)

□景気が良くなる様な話を聞かない。年末の支払いに向けて、サイフのヒモを固くしている。(観光名所=県南)

△これから冬の準備で貯えに回る為。(灯油の値上り・除排雪の準備の為)(一般飲食店=津軽)

△原油価格が下がらないのはこれから冬を迎える時期に全てのコストアップにつながるイメージ。(一般小売店=県南)

×先日むつ市で総合スーパーの大型倒産がありました。その結果、300名超の失業者が出ております。その方々の収入は減る訳ですから、今後の消費の落ち込みは確かかと思えます。(一般小売店=下北)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」